

公益財団法人 日本教材文化研究財団  
平成30年・令和元年度 英語研究会

# 小・中学校の 滑らかな接続を目指した 英語科学習指導の研究

小学校で外国語が「教科化」  
小学校で指導すべきポイントを整理！

校種間の目標を踏まえた指導を提案  
小学校と中学校それぞれの「目標」「指導内容」  
「技能」の側面から指導を検討！

4技能5領域に対応！  
新学習指導要領のポイントを整理！  
それぞれの領域別に指導実践例を掲載！

公益財団法人  
日本教材文化研究財団

## はじめに

本年度から小学校で教科化された「外国語」。本研究会は、小学校でのあらゆる課題を検討すべく、小学校と中学校での円滑な「接続」を目指して発足した。

小学校と中学校で今後予想される課題を整理し、小学校と中学校での「接続」をどのように乗り越えていくかについて2年間にわたり研究と協議を行い、実践報告を行った。

## 小学校の外国語活動の「教科化」と「課題」

改訂された学習指導要領が公示され、令和2年4月からすべての小学校で5、6年に教科として「外国語」が導入された。今回の学習指導要領の改訂では、指導内容や到達目標に関しては各校種の接続を目指した内容になっている。しかし、学習指導要領の狙い通り、各校種の接続を円滑に行われ、期待される成果が得られるには、様々な課題の克服が必要とされる。

本研究会では、克服すべき課題の整理を次のように行った。

### ○ 小学校での課題

- ・ 音声中心の学習が、中学校段階での文字指導に円滑に接続されていない
- ・ 国語と英語の音声の違いや英語の発音と綴りの関係、文構造の学習での課題あり
- ・ 小学校高学年は、児童の抽象的な思考力が高まる段階であり、より体系的な学習が求められる

### ○ 中学校での課題

- ・ 小学校段階での学習内容や指導方法等を発展的に生かすことができていない
- ・ 「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動や「やり取り」・「即興性」を意識した言語活動が十分ではない
- ・ 複数の領域を統合した言語活動が十分に行われていない
- ・ コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて自分の考えや気持ちなどを適切に表現することができない

円滑な接続を目指した英語教育の在り方を提案することを目的として、理論研究と実践報告を行った。実践では、新学習指導要領から新しく設定されることとなった「4技能5領域」毎にそれぞれの校種間の接続を意識した報告を行った。

## 「読むこと」における小中の接続を目指した指導

対象：小学校6年生

単元：中学校生活への期待や将来の夢について発表する活動を設定した。

中学校生活への期待や将来の夢を伝えるために、「中学校のリーフレット」から自分が入りたい部活動や楽しみたい学校行事を読み取ったり、友達に応援メッセージを伝えるために、友達が書いた原稿を読んで考えや思いをとらえたりすることで、自分に必要な情報を読み取る力を育てる。

### 「読むこと」に関する指導の具体例

#### ① モデル文を読む活動について

中学校生活への期待や将来の夢を発表するために、第1, 2, 3時では、I want to join ~. I want to enjoy ~. I want to be ~. といった基本的な表現について音声で十分に慣れ親しませるようにする。それらの表現を十分に聞いたり言ったりした後、モデル文を読む活動を行う。このような活動を通して、一文ずつ音声と文字を一致させていく。

#### ② 中学校の部活動や学校行事の紹介文を読む活動について

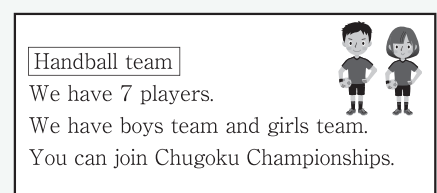
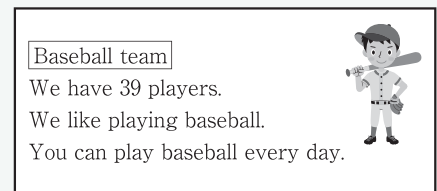
部活動や学校行事の英語表現を知り、自分の好みや特技から入りたい部活動や楽しみたい学校行事を判断し、伝え合う活動を行った。しかし、現実的には好みや特技だけに限らず、複数の情報の中から、自分の条件に合ったものを選ぶことが多い。

したがって、本事例では、部活動や学校行事の紹介文は、実際に児童が入学する中学校の内容にし、活動する曜日や、人数、できることといった複数の情報の中から、入りたい部活動や楽しみたい学校行事を判断することができるようにした。

### 【中学校のリーフレット】



### 【部活動紹介文】



# 「聞くこと」における小中の接続を目指した指導

対象：小学校4年生

単元：社会科との教科協働型単元として設定した。

『ヒロシマの家-フロイド=シュモーと仲間たち-』を教材化し、戦後の復興におけるアメリカ人の貢献の理解と共に、平和への実践を進めたシュモーの平和の考えを学ぶことができる。シュモーがアメリカ人であり、平和への強い思いが残されているため、英語科による平和学習と結びつけることで相乗効果が期待できると考えた。

本単元では、「シュモーさんが行った活動や絵本のメッセージを英語で理解し、自分にはどんなことができるかを考え、表現する。」ことと「友達とピース・メッセージを聞き合い、感想を話し合う。」中で、「話の概要を捉えることができる」力を育てる指導を行った。

## 「聞くこと」に関する指導の具体例

### ティーチャートーク

話すスピードを調節したり単純な表現（語彙・文法）を多用したり、繰り返しや言い換えを多く行ったりと様々な言語的修正を行っている。言語習得を促進するティーチャートークはこのような修正が適切に行われて子どもに理解されるものである。さらに、単に理解されるだけでなく、子どもにとって少し上のレベルではあるが状況や前後の文脈によって理解されうるインプットを与えることが鍵となる。

(シュモーさんの写真を見せながら)

T: Do you know this man?

Ss: Yes! シュモーさん!

T: Yes, you're right. He is Floyd Schmoe. Where is he from? Canada? Australia? America?

S1: シュモーさん is from America.

T: Right. How old is he?

Ss: I don't know. (口々に)

T: He is 53 years old. Fifty three.

S2: Fifty three? I see.

T: He came to Japan after the war.

S3: ウォー?

T: Yes, the war. Atomic bomb fell down at the war. (写真を見せる)

The war.

Ss: ああ戦争ってことか。

「聞くこと」に関する指導具体例は、本編で他にも紹介されています。詳細については、36ページ参照。

## 研究会メンバー

松浦伸和 (広島大学大学院教授), 加納幹雄 (岐阜聖徳学園大学教授),  
櫻葉みつ子 (広島大学大学院准教授), 直山木綿子 (文部科学省初等中等教育局視学官),  
坂田美佳 (徳島県鳴門市立林崎小学校教諭), 西原美幸 (広島大学附属小学校教諭),  
細川裕香 (広島県呉市立昭和北小学校教諭), 本多敏幸 (東京都千代田区立九段中等教育学校教諭),  
山崎学肖 (広島県廿日市市立七尾中学校教諭), 堀本陽平 (広島県立福山明王台高等学校教諭)

※令和元年度時点

## 公益財団法人 日本教材文化研究財団

〒162-0841 東京都新宿区払方町14-1 電話: 03-5225-0255 FAX 03-5225-0256 <http://www.jfecr.or.jp>